

114  
A 805  
2



浪保オセ号



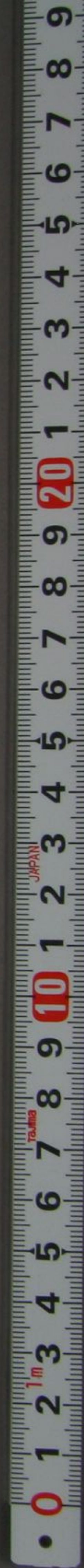
於馬尼刺

明治三十年七月十七日

浪速艦長三須宗太郎

海軍大臣侯爵西郷從道殿

明治三十一年七月六日於馬公港本艦ハ七月十日フィリッ  
ニ島へ向ケ回艦シ便宜秋津洲ト交代スヘキ命ニ接シ全  
日午後八時十分澎湖島媽宮港出港兄弟嶼南六  
哩ノ点ニ向キ操計ス十一日午前六時兄弟嶼ヲ正首ニ祭  
見ス(即北東ニ向ヒタル流潮ノ夕メ六哩北東方ニ推流サ  
シタルヲ覺ユ)午前七時二十八分兄弟嶼ノ南東イ南  
六哩ノ点ヨリ南澎列島蓮花峯ノ前面ヲ經過シテペ  
ドロブランコ島ノ南五哩ノ点ニ操計ス十二日午前二  
時四十分ペドロブランコ島ヲ艦首ニ祭見セリ(約五哩北方





三推流サレタルヲ覺ス依テ午前三時三十分全島ノ北西  
約三哩ニ見テ香港々外ワグラシ燈台ニ向ケ操針ス午  
前十時五分香港々内軍艦錨地ヲ一浮標ニ繫留  
ス當時在泊軍艦ハ英テーパーアラクリチンワグラーハム  
等ニシテ彼我訪問ヲ交換シ英國女皇及ヒテーパー  
ノ代將旗ニ對シ相當ノ禮砲ヲオス今午後十時五  
十分英艦ヲロビト入港トシ午後七時十分清艦海容獨  
逸商船旗ヲ掲ケ入港

一訓令ニヨリ馬公ヨリ海軍少尉成瀬義雄大坂朝日  
新聞記者小川定明香港ヨリ明石陸軍少佐及在  
香港日本領事館照會ニヨリ外國新聞記者二名及  
從者一名馬尼刺ヲ便乗セシム其人各ハ別紙ノ通  
リ

一左記六件ハ既ニ御知得ナラント思考美得其本艦香  
港ニ於テ聞キ得タルヲ以テ御冬考ノタメ記載ス  
一ロリツピン北部ノ西國指揮官ハ避難ノタメ兼テ市外  
ニ在リシニ總督ノ家族カ今ヤ反徒ノ占領地トナルヲ  
以テ小舟ニシテマニラニ渡航スルヲ好機トシ其舟ニ便  
乗シ總督ノ家族ト共ニマニラニ帰航シ其揮下ノ兵  
ハ反徒ノ反徒ニ帰服セ者ノ如シ故ニ今指揮官ハ軍  
法會議ニ附セラレタリト云フ説アリ

二西國ノ應援艦隊ハ本國ノ命ニヨリマニラヨリ引還  
シタリトノ説アリ  
三七月十午午後九時マニラヨリ入港セシ英艦「プロバ」  
訪問士ノ語ルヲ聞クニマニラノ主權ハ尚ホ西國手ニアリト  
四米國陸兵六月三十日三大隊着セシモ未ク攻撃ヲ



始ナス友後ハコニラ市西方一哩ノ外ヲ取囲ミ時ニ發射スルノミミシラ大攻撃ナク先ツ三方聯合攻撃アリ  
五田軍全ク籠城ニテ海陸ノ又交通絶断セラレアルヲ以テ市内ノ糧食品ヲ買収セリ為ノニ般居留民ハ食品ニ欠乏ヲ許ヘ困難大方ナラヌ加フルニ水道中止セラレタルヲ以テ飲水差支ヘ故ニ悪水ヲ飲料ニ供セサルヲ得ル次第ニテ悪水收發生ノ慮ヲ示スト云  
六米國第二面ノ輸送兵ハ四五日比着ル答テハ其  
上ヲ攻撃セルナラントモ云ヒ又或ハ第三ノ輸送兵ハ廿七八日頃ニ着ル答テハ其上ニテ一大攻撃ヲ始ムナラントモ云フ  
一七月十曾午後五時香港出港午後六時四十分ワグラン燈台ヲ西ノ南三哩ニ見テコブラタスノ南西ニ

十五哩ノ点ニ向ヒ操針天候靜穩風南又ニ南々東ニシテ微弱海面砥如シ  
十五日午後三時三十分實測ニ由リ艦位東北東方廿七哩推流サレタヲ發見ス午後四時四十分コブラトカホネ一ス燈台ノ南西五哩ノ東ニ向ヒ操針天候風向等前ノ如ク異ナラス午後二時三十分ノ驟雨未幾止セリ  
十六日午前四時三十分艦位北緯十七度七分東經百十九度四分三十分コブラトカホネ一スノ西方八哩ノ東ニ向ヒ操針  
十七日午前四時三十分コブラトカホネ一スヲ左舷艦首ニ發見ス之ヲコブラトカホネ一スノ南ニ向ヒ南ノチヤン子ルヲ航圖ニ午後三時五十分コブラトカホネ一スニ達シ全時米



國司令官ニ對シ十三夜ノ礼砲ヲナス直ニ答砲  
 了リ四時三分ヲニラ錨地ニ投錨  
 一在港外國軍艦ハ英モーターリットイフイセニヤラットラル  
 ビグミー佛ブルイクスバヤード旗艦獨カイガー旗艦カイ  
 ガリシオーガスターイェ子ニミテカイガーニ十五夜バヤード  
 十三夜ノ礼砲ヲナス各答砲アリ  
 采國艦隊ハ今尚ホカグイテニ存リ全國第二面ノ輸  
 送兵今朝到達セリト聞ク攻撃ノ機モ切迫セシモ  
 如シ其<sup>ニ</sup>他本日マテノ情况ハ秋津洲艦長ノ報告  
 ニ讓ル  
 右報告也

便乗者

巴里<sup>デ</sup>バ<sup>ー</sup>新聞通信員  
 佛國人 Eugène Duchesne

倫敦<sup>デ</sup>リー<sup>ー</sup>テ<sup>レ</sup>グラ<sup>フ</sup>ノ通信員  
 英國人 John Belcourtape  
 三十六年

佛國人從者ハイオン人  
 Nyugen van hoi  
 六十三年



